

# 2022年4月1日(金曜日)の読売新聞に 「ウクライナ避難民への支援」について掲載されました!

## ウクライナ 那須塩原の企業支援 避難民にパン缶

ロシアによるウクライナへの侵攻が続く中、隣国のポーランドに流入した避難民の支援に、那須塩原市の企業が製造する非常用パン缶が役立っている。一般財団法人「日本国際飢餓対策機構」(ハンガーゼロ、大阪府)が現地に届けており、同法人は「避難民らにとっても喜ばれている。こうした日本企業の支援の輪を広げていきたい」と感謝を込める。(折田唯)



避難民らに届けられた「パン・アキモト」の非常用パン缶。ハンガーゼロ提供

### 国際団体 200食分届ける



大きな荷物を持ってポーランドに避難してきたウクライナ人たち(3月24日、ポーランド・メディアカで)にハンガーゼロ提供

オンライン取材でポーランドの避難所の様子などを語る近藤さん(3月31日)



ハンガーゼロは、アジアやアフリカなどで、飢餓や貧困に苦しむ人たちの支援する国際協力団体。ディレクターの近藤高史さん(61)ら職員3人は3月22日、避難民の支援に参加するため、ポーランドに入り、その際、那須塩原市のパン会社「パン・アキモト」の非常用パン缶約200食分を届けた。オンライン取材に応じた近藤さんによると、ウクラ

イナとの国境近くのプシエミシルでは、国境を越えたばかりの多くの人たちが避難所に集まっていた。避難所内では、新型コロナウイルスの感染が拡大しつつあるほか、ポーランドでペナルティのシーツを交換した経緯や現地スタッフの話から、シラムなど衛生面の懸念も感じたといい。避難した女性は「母国に戻りたいが、小さな子供たちの将来を考えると、もうウクライナで安心して育てるのは難しい」と話し、夫が母国に残って働いている女性は「毎日のように連絡を取っているが、連絡が来ないと不安」と語ったという。近藤さんは「話の途中で涙が止まらなくなる人もいた。内面に相当深い傷やストレスを抱えている」と実感する。

避難所には、各国の支援のおかげで食料自体は大量にあるが、缶詰は同じような味が多いという。そんな中、持参したパンを配ると、ミルク、メープルなど複数の味が入っているところが「いろんな味を楽しめる」と好評で、気持ちを和らげるひとときが生まれたという。「パン・アキモト」は、

非常用パン缶を賞味期限の半年ほど前から回収し、新たなパン缶を購入してもらった代わり、飢餓に苦しむ途上国に送る取り組みを続けてきた。今回も、一般市民が犠牲になっていることをニュースで知り、「人さどではない」とハンガーゼロに支援を申し出た。同社専務の秋元信彦さん(42)は「仮にロシアの侵攻が終わっても、ウクライナの復興には長い

時間がかかるはず。現地のニーズを丁寧に聞き取り、長期的に支援を続けていく」と話す。近藤さんは「欧米に比べると、アジアからの支援物資はまだ少ない。日本企業にもっと協力を働きかけていきたい」と誓った。